

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 亀山八幡と池田の棧敷を訪ねる

講師 太田義行（元香川県文化財保護指導委員）

平成21年11月22日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 小豆島町 池田

小豆島の文化の発生は、旧石器時代に遡ります。古代王権中期の応神天皇の時代には吉備国児島郡に属し、その後、平安時代の初期より皇室の御領地として南北朝時代まで続きました。中世を経て、近世初期までは島内は4庄に分けられ、池田荘、または池田郷と称えました。江戸時代、幕府の天領地となり池田郷は11ヶ村に分けられ、天保年間、津山藩の領地となりましたが、明治12年（1879年）1月31日池田村戸長役場を置き、同23年（1890年）2月15日町村制実施により細分されていた池田・蒲生・中山の3ヶ村も合併して池田村と称えました。また、室生・二面も合併して二生村と称し、同じく吉野・蒲野・神浦の3ヶ村も合併して三都村となりました。

その後、昭和4年（1929年）5月5日池田村は町制を施行し、池田町となり、同29年（1954年）10月1日には町村合併促進法により池田町・二生村・三都村を合併、新町名「池田町」として発足し、今日に至っています。

町の特産品には400年の伝統と秘伝の技を誇る名品「小豆島手延べそうめん」をはじめ、恵まれた温暖な気候と勤勉な農家のたゆまぬ努力で作り出す「電照菊」、日本で初めて栽培に成功した平和のシンボル「オリーブ」、初夏の甘酸っぱい風味の「レットスター（スモモ）」など、全国に誇りうる数々の特産品があります。

2 平井兵左衛門終焉の地 ひらいひょうざえもん 町指定史跡（平成5年3月1日）

延宝5年（1677年）から2年間にわたり、備前足守藩木下利定親子によって小豆島は徹底した検地（注1）が行なわれました。この検地によって島の年貢は倍となり、元禄2年（1689年）からこれまでの幕府の加子浦（注2）かこうらとしての恩典が解除されることになりました。

窮乏した農民は再三窮状を幕府に訴えましたが、効果なく、そこで池田郷の庄屋をしていた平井兵左衛門は、正徳元年（1711年）、江戸へ出て幕府勘定奉行に年貢を下げてくださいよう願ひ出ました。しかし、当時の小豆島は天領（幕府の領地）

とはいえ、高松藩預かりとなっていたことから、高松藩を無視した越訴（注3）おっそは極刑にあたりとされ、兵左衛門は捕らえられて、江戸から高松、そして小豆島に連れ戻されました。正徳2年（1712年）3月11日、村内引き回しのうえ江尻浜で打首・獄門の刑に



五輪塔

処せられ、首は7日間獄門場に晒されました。兵左衛門36歳の時です。島の人々は彼を「義人」とよんでこの地に五輪塔を建て祀っています。

また、村人は、文化8年（1811年）兵左衛門没後の百年祭を行い、龜山八幡宮馬場に「平称霊神社」を造建、以来今日まで、3月初め、祭礼を執り行っています。

（注1）延宝検地

徳川4代將軍家綱の時代延宝5年（1677年）幕府は、太閤検地以来80年間一度も検地を行わなかった五畿内検地業務立の検地を実施しました。立案者は荻原重秀であったと推定されます。重秀は、五畿内の土豪出身の世襲代官の妨害を排する為、近隣の諸大名に検地を行わせる事を提言し、同時に勘定所からも巡検団を派遣して現地調査を行う事で、より正確に現地の状況を把握する事に努めました。

（注2）加子浦 かこうら

「加子浦」は公用船や海路に行く参勤交代の諸大名の通船へ、水や薪を供給したり、加



義人頌徳之碑

題字 平沼騏一郎（注4）

子役（船をこぐ者）を勤め、労役を課された浦のことです。また、地先漁業じさきの占有権を認められていました。

（注3）越訴おっせ

順序を経ないで、直接上級の官司に訴えることで、律令制以降、全時代を通じて原則として禁止され、特に江戸幕府はこれに厳罰を与えました。

（注4）平沼騏一郎略歴

慶応3年9月28日岡山県津山市生まれ。司法官僚、政治家、父は津山藩士。大正12年（1923年）第2次山本内閣司法相となります。翌年貴族院議員に勅選、枢密顧問官に任命され、のち枢密院副議長、議長を歴任し、昭和14年（1939年）首相になりました。



池田の棧敷

3 池田の棧敷さじき

重要有形民俗文化財（昭和51年8月23日）

亀山八幡宮社殿から400mほど離れた場所に、自然の地形を巧みに利用した切石積の
棧敷があります。規模は長さ80m、6〜8段の階段からできており高さは約18mもあ
ります。瀬戸の海に面し、自然の地形を巧みに利用して、自然石を野面積みにしてありま
す。古代ギリシヤの野外劇場を思わせる棧敷の傑作でもあり、亀山八幡神社秋祭の太鼓台
や神輿、大練りを見物するために築かれたものと思われます。

構築年代については立証すべき資料が見当たりませんが「奉縣當社御祭禮之圖」から文
化9年（1812年）以前の構築と推定されています。この棧敷の特色は規模の大きさも

さることながら、棧敷のひとつひとつを村の有力者たちが占
有していましたが、後になってそれぞれの使用権を売買でき
るしくみになったことです。

4 長勝寺 金陵山 阿吽院 （本尊 大日如来）小豆島

霊場 第33番

木造伝池田八幡本地仏坐像
【木造伝池田八幡本地仏坐像】 重要文化財（大正8年8月
8日）

本像は亀山八幡神社の本地仏と伝えられ、神仏習合、本地ほんじ



すいじやせつ

垂迹説（注5）を考える上で、重要な意義を持つ像であると言われています。八幡三神（中尊Ⅱ応神天皇・向かって左Ⅱ神宮皇后・向かって右Ⅱ比売神（亀山八幡宮では姫太神））とその本地仏を表現しています。体部は衣に身を包み両手を胸前で合わせています。右袖に左袖を入れた姿で（笏を持って居たと考えられる）造られていて、頭部の形状は如来・菩薩・僧形の三種類に分けられています。頭部は仏像に基づいていますが体部は俗体の姿をしていて非常に珍しいものです。これら3体はいずれも桧ひのきの木で刻まれた丸彫の像で、肉身には白（胡粉）が、衣の部分には黄褐色（黄土）が残っています。如来形や菩薩形の面相部の穏やかな表現や菩薩形の髻の低いことから見て平安時代後期12世紀頃の造像と思われる。

（注5） 本地垂迹説

神道と仏教を両立させるために、奈良時代から始まっていた神仏習合（神仏混交、神と仏を同体と見て一緒に祀る）という信仰行為を、理論付けし、整合性を持たせた一種の合理論で、平安時代に成立しました。

【梵鐘】 重要文化財（昭和41年6月11日）

この梵鐘は大麻山の中腹、滝水寺にあったものです。滝水寺は早くに無住となり、長勝



梵 鐘

寺が兼帯していたため現在は長勝寺に安置されています。鐘の銘文から建治元年（1275年）に滝水寺の鐘として製作されたことがわかります。河内の国で作成され、愛媛の石手寺や興隆寺の鐘も同時代に作成されたものです。河内の国は平安末期頃から鋳物師が全国的に活躍し、盛んに梵鐘などを作成していました。

形はやや細長く、優雅な鐘で、裾はしまり、駒のつめは細く、鋳上がりも良く優雅な形をしています。

【宝篋印塔】 重要美術品（昭和18年10月1日認定）

滝水寺の本堂の奥にある洞窟の中に安置されていました。高さが1.2mあります。宝篋印陀羅尼経を安置する塔で、鎌倉時代に盛んに作られました。刻銘により、建武5年（1338年）に作られたことがわかります。



宝篋印塔

5 亀山八幡宮（郷社） 祭礼 10月16日 祭神

おうじんてんのう
応神天皇
じんぐわうていじゅう
神功皇后
ひめおおかみ
姪太神

城山の麓に建つ社で、鳥居をくぐり坂道になった参道を行くと、阿形・吽形の狛犬が迎えてくれます。随神門から広い境内に入ると、重厚な本瓦葺の唐破風の拝殿が建っています。小豆島五社八幡神社（注6）のうちの1社であり、応安4年（1371年）の棟札が

発見されています。古今讃岐名勝図会には「祭神応神天皇他二神 延長四年（926年）の創建で本郡五社の一である」と記載されていて、重要民俗文化財の棟敷が境内にあります。

本殿の横には県の保存木であり、町指定の天然記念物（昭和58年4月27日）榎柏しんぱく（樹高18m）があります。この榎柏は、地上10mの高さから頂上にかけて、落雷のため枝張りが少なく、裸木になっています。地元の人々に古くから御神木として大切にされており、樹齢は400年以上と推定されています。周辺には真柏、ウバメガシなど多種類の木々が見られます。

（注6）小豆島五社八幡神社

応神天皇が小豆島遊行の際、宿泊したとされる由緒ある地に建っています。

伊喜末八幡神社いぎすえ（土庄）・湊崎八幡神社（土庄）・亀山八幡宮（池田）・内海八幡神社（内海）・福田八幡神社（内海）の5社



亀山八幡宮

【香川県神社誌】に左記の記載があります。

郷社龜山神社

延長四年（紀元一五六八）八月一六日の肇祀にして應神天皇御遊幸の舊蹟に男山より勸請奉祀せしものにて池田八幡宮と奉稱せされ、小豆島五社八幡宮の一なり。日本書紀應神天皇二十二年の條に『天皇便自淡路轉以幸吉備遊千小豆島』とあり。即ち四海村伊喜末に御上陸の後池田の里に御遊幸ありて、生田の森に五十甕をつくりて島魂神大野手比賣命及び式甕槌神、豊玉姫神を御親祭遊される。生田森は現今のお旅所に相當し永くこの地に御親祭にかかる神々を祀りし神社ありたりと云ふ。池郷氏神略由来記（寛政甲寅秋平井揚記）に『男山妙美井正八幡武大神當郷に移し奉るその濫觴を慎み尋に宇多天皇第四の皇子敦實親王御領地にして醍醐天皇の御宇八幡式大神の御託宣にまかせ本社造営もちて干時延長四丙戌年八月十有六日當山遷宮奉るこれによりて今に至るまで毎年八月中の十六日祭禮執行……當山の形萬年の齡をたもつ毛龜のごとくなるによりて寶龜山と號す』とあり。延長年間男山より奉遷の際神主田村彦兵衛藤原利屋彼の地より供奉し來り子孫連綿として明治維新に及べりと。又氏子に須佐美氏あり、その先は生田鉢伏山の城主にして古くより當地に住し代々崇敬厚く社殿の造営に盡力せり。古記録は多く亡失し詳ならざれども應安四年の棟札あり。其のご嘉永五年、明治十五年、同三十三年の修理を経て現今に至る。當

と、大永2年（1522年）4月に池田湾に面した小山に城を築いていた豪族須佐美元安
入道成椿せいちんが大願主となって着工し、天文2年（1533年）4月に完成したことがわかります。

（注8）向拝 神社仏閣の本堂の正面玄関などに屋根がせり出してる部分をいいます。そこから御本尊に向かい礼拝することでこう呼ばれました。

7 池田の七不思議

一 本堂の瓦にはコケが生えない

明王寺釈迦堂に全部で十個の鬼瓦があるが、そのうち南西にある龍の形をした鬼瓦だけは室町時代よりコケが生えたことがない。

二 八幡さんの境内には草が生えない。

郷社龜山八幡宮の境内には草1本生えた事がない。

三 目洗いの池の水位が池田湾の干満の潮位と一致する。

西の滝から西方頂上付近にある弘法大師ゆかりの小池の水位が池田湾の干満と同時に



釈 迦 堂

上がったり下がったりする。

四 龍頭の松に光が止まる。

大晦日の夜、瀬戸内の海中にある竜宮城から光が昇り、西の滝にある龍頭の松に止まる。

五 応神天皇の腰掛け石に腰を掛けると腹痛が起こる。

半坂の海岸に応神天皇が来島したとき腰掛けた石があった。その石に座ったりすると腹痛が起こった。

六 アカの川にどこからか水が湧き出る。

自然の隙間のない岩盤を敷きつめた井戸の底からアカの水が湧き出てくる。

七 池田の田には、レンゲが生えない。

昔から池田本村だけは、レンゲの花を見つけることが出来なかった。

【参考文献】

『香川の文化財産』平成8年3月発行 香川県文化財保護協会 『旧池田町ホームページ』

『香川県神社誌』昭和13年12月1日発行 香川県神職会

『ぶらり讃岐の民話とむかし話』昭和63年12月15日 岸上企画出版社

『香川県の歴史散歩』1996年5月15日 香川の歴史散歩編集委員会



誓願寺のソテツ



池田港



408kgのかぼちゃ



風景